



## 東日本大震災 医療救護班報告

福島県  
会津若松  
その2

5月11日～13日、琵琶湖中央病院東日本大震災医療救護班（以下、医療チーム）は福島県会津若松市にある会津保健所を拠点とし、13ヶ所の避難所での巡回診療を行い、147名の方の診察を行いました。「病院だより第7号」では5月10日の出発から第1日目、第2日目にかけての医療救護活動を報告させていただきました。

5月13日、第3日目の巡回診療は猪苗代町にあるリゾートホテルと磐梯山の麓にあるペンション村。診察室はホテルの1室とペンション村管理棟の集会場に設営。初診26名、再診5名の方の診察を行いましたが高血圧、不眠症状等、やはりストレス症状の多いのが特徴的でした。大震災から2ヶ月が経過し、ひと時の落ち着きを得た避難所でしたが、見通しのない平時回復と仮設住宅への移動後に訪れる自力による生活への不安が、避難されている方々から語られました。「心のケア」のたいせつさを、あらためて感じた3日間の巡回診療でした。



（猪苗代町「猪苗代リゾートホテル」、磐梯町「七ツ森ペンション村」での巡回診療）

巡回診療を終えた医療チームは往復約4時間かけて、津波の被害を受けた「いわき市小名浜港」の視察に向かいました。

会津若松市から磐越道を経由し、いわき市へ。小名浜港に近付くにつれて現われてくる地震災害の傷跡。倒壊家屋、アスファルトのうねり。道路の段差。カーブを曲がり小名浜港へ。

数メートルの距離の差が分けた現実と非現実。目の当たりにする惨状に医療チーム一同、突然、出る言葉を失ってしまいました。そこには大津波が押し寄せ、多くのたいせつなものを持ち去った後の残骸が積み重なっていました。テレビや新聞による面の情報ではなく、眼前のパノラマの無残な光景に大きな衝撃を受けるとともに、この地が失ったものの大きさを改めて認識した次第でした。



（2011/5/13 福島県いわき市小名浜港）

3日間の福島での医療救護活動では多くの出会いと経験がありました。さまざまな医療チームに加わりながら2ヶ月間にわたりボランティアで救護活動に携わる会津若松出身の横浜市立医大の女性医師。私たち医療チームに飛び込み、献身的に医療活動を支援していただいた愛知県の薬剤師チーム。避難された方をお世話するホテル・旅館の従業員の皆さん。不眠不休の会津保健所の現地職員。そのような方々に支えられ、助けられ、琵琶湖中央病院東日本大震災医療救護班は無事任務を終え、5月14日、朝のミーティングに参加し、会津若松を後にしました。

被災地の日も早い復興を心から願います。

**7月から、「神経内科外来」（担当：片山医師）  
毎週火曜日、午後の診察を開始します**

受付時間：午後1時30分～

診察時間：午後2時～4時

※片山医師、水曜日の診察は従来通り行います